

# 令和元（2019）年度自治医科大学大学院看護学研究科FD活動のまとめ

## I. 令和元（2019）年度 科目責任者による授業改善の取り組み

### 1. 博士前期課程

#### 1) 共通科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
看護管理・政策論	春山 早苗	無記名による自作の授業評価票により評価した。項目は「①必修科目であることの意義が理解できたか」「②授業内容及び③授業スケジュールへの意見・要望」「④授業全般の感想」とした。①については回答者全員が「はい」と回答した。政策に関する課題レポート、複数の講師による講義とディスカッション、土曜日の集中的な講義であることが好評であった。
病態生理学特論	倉科 智行	未開講
フィジカルアセスメント特論	村上 礼子	未開講
臨床薬理学特論	大塚 公一郎	未開講
看護実践研究論	半澤 節子	未開講
コンサルテーション論	永井 優子	履修者数が2名と少なく、2019年改訂のテキストを用いたため、分担を調整して、学修上の負担が軽減できた。初めて非常勤講師による2週連続の集中授業となったが、例年通りには授業資料等について共有するとともに、担当回終了後には学生の反応と今後の対応についてともに検討した。履修者2名では、グループにおける役割のすべてを体験できないこと、同じ立場の力動が限られることから、例年の効果と質の維持は難しい面があった。毎回の授業終了時に学生からの質問を確認して、最終レポートにおける学び等を確認し、次年度以降の授業改善に活かし、次年度の集中授業は2日間連続に戻すこととし、履修者が少ない場合は、コンサルテーション希望者を確保する方法を検討する。
看護倫理	小原 泉	科目の到達目標を学生に十分に説明し、特に演習部分で学生が到達目標を理解して課題に取り組めるよう留意した。演習でのディスカッションテーマは、院生のプレゼンテーション内容に応じて柔軟に調整し、臨床現場の実態に即した最善策をディスカッションできるよう教授した。ディスカッションが散漫にならないよう必要に応じて軌道修正を行い、演習目標を達成できるようにした。非常勤講師とも随時情報を交換して、学修課題の達成に努めた。各回の授業の際に学生の意見・感想を聞き、講義の理解度、演習課題の難易度や取り組み状況、有用性や満足度を確認して授業改善に努めた。
看護継続教育論	本田 芳香	科目開講2カ月前に、授業で課す内容を記した学習課題を提示し、科目に取り組む準備時間の確保に努めた。授業科目の最終回に、学生に対して授業の進め方、課題内容などについて意見や感想を聴き、授業改善に反映できるように努めた。授業科目終了後、科目担当者間で、授業運用、科目達成度を含めた評価方法などについて意見交換をし、次年度の授業改善に向けて検討した。
地域医療論	春山 早苗	未開講
地域調査法	春山 早苗	未開講

Academic Writing& Oral Presentation	成田 伸	自治医大シンポジウム、EAFONS における英文での投稿・発表を目指し、パラグラフライティング、スライドプレゼンテーションについて演習的に取り組み、その後文献・自己の研究を用いてプレゼンテーション及びディスカッションを重ねた。前年度に EAFONS で発表した学生に講義内でサンプルプレゼンテーションしてもらい、実践的な学びとなるよう配慮した。受講者からは、学会への登録に間に合うように、開講時期を早めて欲しいとの要望が強く、次年度は開始時期を早める予定である。
--	------	---

## 2) 専門科目

領域	科目責任者	授業改善の取り組み
小児看護学	横山 由美	授業の進捗について学生に確認しながら進めた。また、学生からは授業の途中および最終授業終了後に感想や意見、学びについての課題を確認し、非常勤講師からは学生の学びの評価や授業の改善点などを確認して、次年度の授業改善を検討した。
母性看護学	成田 伸 野々山 未希子	長期履修の 1 年次 1 名に講義 I のみ教授するとともに、セミナーを定期的に開催し、研究課題追及の作業を行った。3 名名の 2 年生について、1 名は母性看護専門看護実習履修し、事例に基づき課題研究を実施し、1 名は特別演習・特別研究を実施し、1 名は長期履修のためセミナーを通じて研究課題追及の作業を行った。院生の状況が異なるため、それぞれの学習状況・評価・感想を適宜確認・調整しながら進めてきたが、次年度以降の改善に向けて検討を重ねている。
クリティカルケア 看護学	佐藤 幹代	未開講
精神看護学	半澤 節子 永井 優子	院生の進捗状況を確認しながら、必要な助言を行った。また、院生から研究指導に対する意見や要望をその都度確認しながら、指導内容を工夫した。
がん看護学	本田 芳香 小原 泉	未開講
地域看護管理学	春山 早苗 塚本 友栄	今年度開講した科目について、学習目標の達成状況および担当教員の意見ならびに学生の意見・感想を踏まえ、次年度の授業改善に向けて検討した。
診療看護技術管理学 (看護技術開発学)	村上 礼子 里光 やよい	学生の理解度を確認しながら指導を行うように努めた。また、多くの教員からの助言がもらえるようゼミ形式での授業を多く設定したほかに、指定書籍を院生と共に読み解き、ゼミでの理解不足を補うように努めた。研究指導に対する意見や要望を把握し、学習目標の達成度を確認しつつ、次年度の授業改善に向けて検討した。
老年看護管理学	上野 まり	未開講

## 2. 博士後期課程

### 1) 専門関連科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
異文化精神医療論	大塚 公一郎	未開講

地域保健医療研究論	春山 早苗	最終回において学生より授業への意見等を聴取した。オムニバス形式の科目であるが、各担当教員の非常に熱心な指導が好評であった。科目責任者として他の担当教員の授業に参加し、授業終了後、話し合う機会を持ち、次年度の授業改善に向けて検討した。
-----------	-------	--

## 2) 専門科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
広域実践看護学特論Ⅰ (ヘルスケアシステム ・看護管理研究法)	春山 早苗	最終回において学生より授業への意見等を聴取した。これに学生の課題への取り組み状況および学習目標の達成状況を加えて、担当教員間で話し合い、次年度の授業改善に向けて検討した。
広域実践看護学特論Ⅱ (クリニカルケア研究法)	横山 由美	教員間で学生の学びの状態を確認し、必要時授業内容を調整していった。学生には最終日に感想と学んだ内容について聴取した。
広域実践看護学特論Ⅲ (メンタルヘルス研究法)	半澤 節子	未開講
広域実践看護学特論Ⅳ (看護教育研究法)	本田 芳香	未開講
広域実践看護学演習 (ヘルスケアシステム ・看護管理) (看護教育) (クリニカルケア) (メンタルヘルスケア)	半澤 節子	学生が選択したテーマを担当する教員と院生とで必要な連絡がとれるよう、入学時オリエンテーションを工夫した。本年度から、科目責任者が講義を担当し、そのうえで、ケア系とシステム系の各1名の担当教員により指導をする体制となったことで、院生の進行状況に合わせた指導が適切にできるようになった。また、合同研究セミナーでの発表内容から研究の進捗状況を把握し、スムーズに研究計画を立案できるよう支援した。
広域実践看護学特別研究	春山 早苗	研究科長として、今年度の修了生に研究活動や研究指導の感想・意見を聞き、次年度の研究指導の改善に向けて検討した。主研究指導教員として担当の学生へは、研究の進捗状況に応じて学生と指導時期を話し合い、個別指導と副研究指導教員も交えた指導を組み合わせ、合同研究セミナーで得た意見も参考にして指導している。また、副研究指導教員として担当の学生へ合同研究セミナーの機会や主研究指導教員らとともに指導している。
	成田 伸	面談での個別指導およびメールのやり取りを通じて進捗状況を把握し、副研究指導教員からの意見や合同研究セミナーでのコメントも活かして、研究指導に反映した。また学生が多様な場で学べるように、人との出会いの場を設定し、研究会への参加を促した。一人は博士論文作成した。もう一人は在職の多忙さで後期に休学となったが、次年度は復学予定である。面談等の際に学習状況など確認し、研究推進に向け支援できたと評価している。
	半澤 節子	学生とのメールでの情報交換から、学生のワークライフバランス、進捗状況を適宜把握しながら、学生が主体的に取り組めるよう教授方法を工夫した。
	横山 由美	個別指導により学生の考えを把握し、学生の研究の進捗状況に合わせてられるよう学生との面接期間の調整を行った。合同研究セミナーおよび小児看護学に関わる教員・院生から意見をもらい、修正方向を検討していった。

## II. 看護学研究科担当教員間の評価

令和元年度は実施しなかった。

## III. 研究科長と大学院生との懇談会

年2回、講義・演習、研究指導、及び学習環境について大学院生に意見を聞き、必要な対応を行った。

### 1. 第1回懇談会

- 1) 実施日時： 令和元年9月17日（火）17:00～18:00
- 2) 実施場所： 学部長室
- 3) 参加者： 前期課程学生1年1名（2名欠席）、2年6名（2名欠席、2名休学）  
後期課程院生1年0名（1名欠席）、2年0名（3名欠席）、3年1名（6名欠席）計7名

### 4) 学生からの学習や学生生活についての感想

#### <前期課程>

共通科目等において専門領域以外の教員からも授業や指導を受けることができ、視野が広がった、1年生への助言として、倫理審査委員会の承認を得ることに時間がかかるので、研究計画支援委員会への研究計画の提出は早めに行った方がよい、今年度修了予定者からはデータ収集をもうすぐ終わるところである。データ収集後の分析に時間がかかるので、計画的に取り組んでいかなければならないと考えている、仕事との両立が大変である、量的研究に取り組む際の統計的手法に関して助言・指導が得られる非常勤講師がいるのがよいなどの意見が挙げられた。

#### <後期課程>

特になし。

### 5) 学生からの意見・要望

#### <学習環境について>

パソコンの更新がいつ行われるのか教えてほしい（早く更新してほしい）、加湿器があるとよい、スタンドライトがあるとよい、研修センターの停電時、真っ暗になり大変だった、懐中電灯等の停電時の備えが必要だなどの要望が挙げられ、加湿器やスタンドライトは学生個々に準備するものであることが回答された。

### 2. 第2回懇談会

- 1) 実施日時： 令和2年3月2日（月）
- 2) 実施場所： 学部長室
- 3) 参加者： 前期課程学生2年4名（2名欠席）、後期課程学生3年3名 計7名

### 4) 学生からの学習や学生生活についての感想

#### <前期課程>

系統的に看護を学ぶ機会になった、医師を含む多職種による講義や演習科目により看護の幅が広がった、通学時間が長く学習のリズムをつくれなかったが2年目からは慣れてきた、仕事との両立は体力的にきつかった、言語化や文章化が難しかった、言語化できるようになり周囲（職場）からもよい評価を得ている、専門看護師教育課程42単位をとることは大変であり、大学院に専念してよかった、院生室では先輩もいて情報交換ができ気持ちが切り替えられた、職場の他の看護師が大学院を目指す機会をつくっていききたい、研究に取り組んで次に取りくむべき研究課題が見えてきたので取り組んで行きたいなどの意見が挙げられた。

#### <後期課程>

広域実践看護学分野は、自分の専門領域以外の色々な領域の教員から指導・助言が得られ本研究科の特徴であると思う、合同研究セミナーで色々な領域の教員から意見を得られたことが研究計画に役立った、特論と演習で文献検討に取り組みその後の研究を進めていく上で役立った、指導時間を研究指導教員に配慮してもらえよかった、前期課程の時は勝手がわからず大変であったが、後期課程では見通しをもって研究を進めることができた、研究費を得られることがとてもよく、助かったなどの意見が挙げられた。

### 5) 学生からの意見・要望

院生室のパソコン、プリンターなど学習環境が整っている、エアコンが付き環境がよくなった、カーペット清掃後のおいについて消臭剤が置かれ改善した、大学院生も住宅を借りられることがよかったなどの意見があった。

最終試験から論文提出までが短い、院生室が狭い、研究室は寒い、停電が多い、男子学生も宿泊できる場所があ

るとよいなどが挙げられた。パソコンが古く動かなくなることがあったとの意見があり更新した、院生室のコピー機が遅く大変との意見があり購入予算を申請した旨、回答された。

#### IV. 大学院看護学研究科 FD 研究会の実施

##### 1. 目的

公的資金である文部科学省科学研究費補助金の審査システムと看護学研究の昨今の動向を理解し、大学院教員の研究指導力を高めることに活かす。

##### 2. 目標

1. 公的資金である文部科学省科学研究費補助金の審査システムの変遷を理解する。
2. 文部科学省科学研究費補助金に採択される看護学研究の動向を知る。

##### 3. 日時・場所

2019年8月26日（月） 10:00～12:00 学習室

##### 4. 内容

- 1) テーマ 「科研費審査システムの改革と看護学の展望」
- 2) 講師 学校法人鶴岡学園 北海道文教大学人間科学部看護学科  
松田 ひとみ 教授  
2015年～2017年 日本学術振興会学術システム研究センター 専門研究員  
(医歯薬学専門調査班)として看護学を担当された。近著に「科研費審査システムの改革と看護の動向」(看護研究雑誌、2018年)がある。
- 3) 参加者 26名  
(内訳；大学院担当教員19名、大学院担当以外の教員5名、院生2名)
- 4) プログラム

時間	プログラム
10:00～10:05	開会の挨拶 看護学研究科長・看護学部長 春山 早苗
	講師紹介 FD 評価実施委員会委員長 村上 礼子
10:05～11:55	講演「科研費審査システムの改革と看護学の展望」 北海道文教大学 人間科学部看護学科 教授 松田ひとみ先生
11:55～12:00	閉会の挨拶 研究推進委員会委員長 小原 泉
	アンケート記入 片付け

##### 5) 参加者アンケート結果(概要)

(1) 配付数 26 回収数 24 (回収率 92%)

(2) 回答者の属性

大学院担当教員 19 名、大学院担当以外の教員 3 名、院生 2 名

職位 教授 11 名 准教授 6 名 講師 4 名 助教 1 名 その他 2 名

(3) 企画評価の質問回答

・開催時期・開催時間は9割以上好評な回答であった。

(3) 自由記述内容

<感想>

・科研の傾向が良く理解できました。

・科研費審査の仕組みがよく分かり、申請に有用な内容だったと思う。

・教育にかける労力(エフォート)が年々増大しており、研究の時間をどう確保するのか、どのようなサポ

ート体制が必要か考えさせられた。 等

<今後希望する企画>

- ・他分野からみた看護学研究の課題と展望
- ・臨床と学び・研究の両立に関するマネジメント、教育と研究に関するマネジメントの理論 等

## V. 意見箱について

投稿された意見はなかった。